

# 巨大データの時代

## 気候予測データセットの整備に関する方針

- 我が国の気候変動適応に資する予測情報として
  - ① **気候予測データセット**
  - ② **解説書（予測結果の概要、データ利用ガイダンス）**を整備する。
- これらをデータ統合・解析システム（DIAS）や気象庁ホームページ、気候変動適応情報プラットフォーム（A-PLAT）等に置きユーザーに提供する。

- 約 20 ペタバイト弱
- 自己のマシンにダウンロード不能
- スパコンで計算するだけでなく（第3）、スパコンで創出されたデータを非スパコンで解析する後工程（第4）が大切になる。
- データプラットフォーム必須の時代へ（eg. Event attribution）

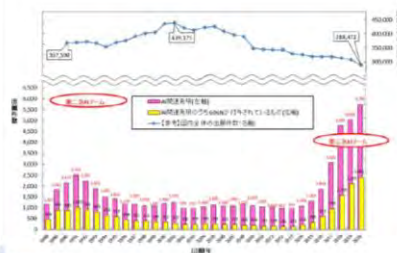
総量は見劣りしないのに、  
なんで AIの特許が出ない？

### AIの作成・利活用促進に向けた方向性

AI関連発明の出願状況調査（2022年10月 特許庁作成）

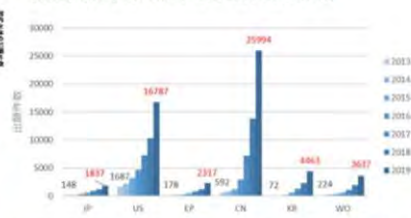
- AI関連発明の国内出願件数は第三次AIブームの影響で2014年以降、毎年増加。
- AI関連発明の出願は各国でも増加傾向であり、特に、米国と中国が突出しており、両者が世界において主要な出願先。

AI関連発明の国内出願件数の推移



出典：特許庁IPDBを用いて特許庁が作成・公表（2022年10月）

各国出願件数の推移 ※分類G06Mが付与されているもの  
(各国2013年と2019年の出願件数を表記)



出典：WIPO Patentscopeを用いて特許庁が作成・公表（2022年10月）

# Data Fuels AI

18

## 審議依頼の具体

記

- 1 これまでの日本学術会議における検討を踏まえ、研究データの共有・公開も含めたオープンサイエンスに対する日本学術会議としての考え方の取りまとめ
- 2 大学・国立研究開発法人等において必要となる研究データ管理・利用のための課題の整理と具体的方策（管理・活用体制の整備方策、人材確保・育成方策など）
- 3 各分野の多様性を踏まえ、今後のデータ駆動型科学の振興のために考慮すべき事項（研究者間の連携、情報技術や計算資源の活用事例など）、データ共有への具体的取組方策（データ共有へのインセンティブ付与のための方策、分野間連携のためのコミュニケーションの在り方など）

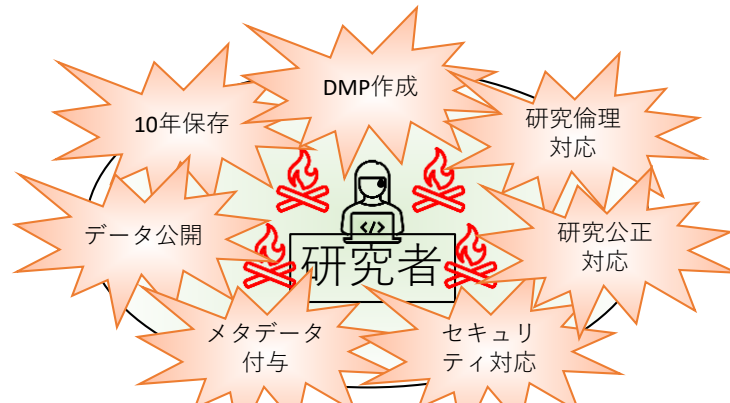
(2) 大学・国立研究開発法人等において必要となる研究データ管理・利活用のための課題の整理と具体的方策（管理・活用体制の整備方策、人材確保・育成方策など）

- 【提案1】研究者が容易に利用可能な研究データプラットフォームの構築
- 【提案2】データプロフェッショナルの育成と多面的な研究評価の実現
- 【提案3】モニタリング機構に基づくデータ駆動型研究の不断の改善

(2) 大学・国立研究開発法人等において必要となる研究データ管理・利活用のための課題の整理と具体的方策（管理・活用体制の整備方策、人材確保・育成方策など）

- 【提案1】研究者が「容易に利用可能な」研究データプラットフォームの構築
- 【提案2】データプロフェッショナルの育成と多面的な研究評価の実現
- 【提案3】モニタリング機構に基づくデータ駆動型研究の不断の改善

## 研究データ管理やデータガバナンスが 大きなストレスに！



学術機関における研究データ管理やデータガバナンスには「余計な作業」を「必要な作業」に転換するDXが不可欠

この多くの義務を  
デジタルで  
出来る限り軽減することが必須

単なるデータの置き場ではな  
く、研究者に寄り添うデジタ  
ル環境の構築が必須